

形成外科 TOPICS

愛知県がんセンター 形成外科

形成外科では腫瘍切除後の再建手術を行っています。主となる診療科と十分な連携を図り、患者さんの生活の質（QOL）の維持・向上を目指しています。

当院で担当してる分野は頭頸部、乳房、整形外科、消化器外科などの手術に伴う再建手術やリンパ浮腫治療などです。また治療後や疾患による傷跡や変形など、アピアランスに関する問題も取り扱っております。今回はリンパ浮腫治療とアピアランスケアについて説明いたします。

1. リンパ浮腫治療
2. アピアランス問題への取り組み

1.リンパ浮腫治療

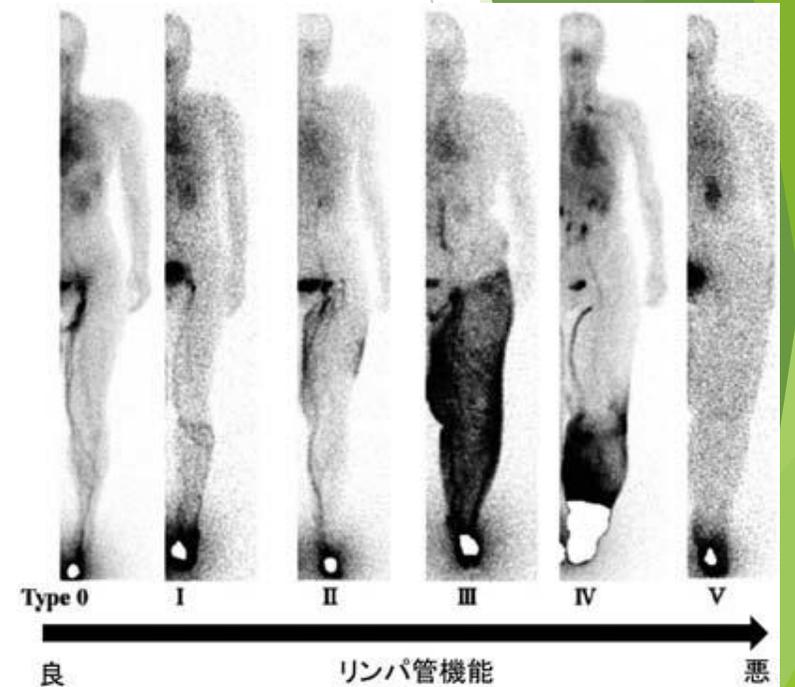
リンパ浮腫とは？

- リンパ浮腫とは、皮膚や皮下脂肪のすきまにリンパ液が溜まって起こるむくみのことです。
- リンパ節が切除されたり、リンパ管が傷ついたりすることによって、今までそれらの中を流れていたリンパ液が流れることができなくなり生じます。
- がんの治療で行われる手術では、リンパ節へのがんの転移を防ぐためにリンパ節の切除などを行います。そのため、リンパ浮腫が発生しやすい状態になります。
- 手術に加えて行う放射線治療や化学療法でも、リンパ浮腫が発生しやすくなると言われています。



リンパシンチグラフィ

- **リンパ浮腫の診断に最も有用**で、国際リンパ学会でも推奨される診断法です。日本でも2018年9月より保険適用となりました。
- 足や手の指のつけ根に**微量の放射線を出す薬剤**を注射します。放射線の量は微量ですので、健康に害はほとんどありません。
- 薬剤がリンパ管に取り込まれ、流れていく様子を見ることで、**リンパ液の流れをみることができます**。
- これにより**リンパ管の働きや、むくみの度合い**を知ることができます。
- 確定診断を得る目的のほかにリンパ浮腫に対する手術前後の評価にも用いられています。



引用:秋田新介.リンパ学.2016

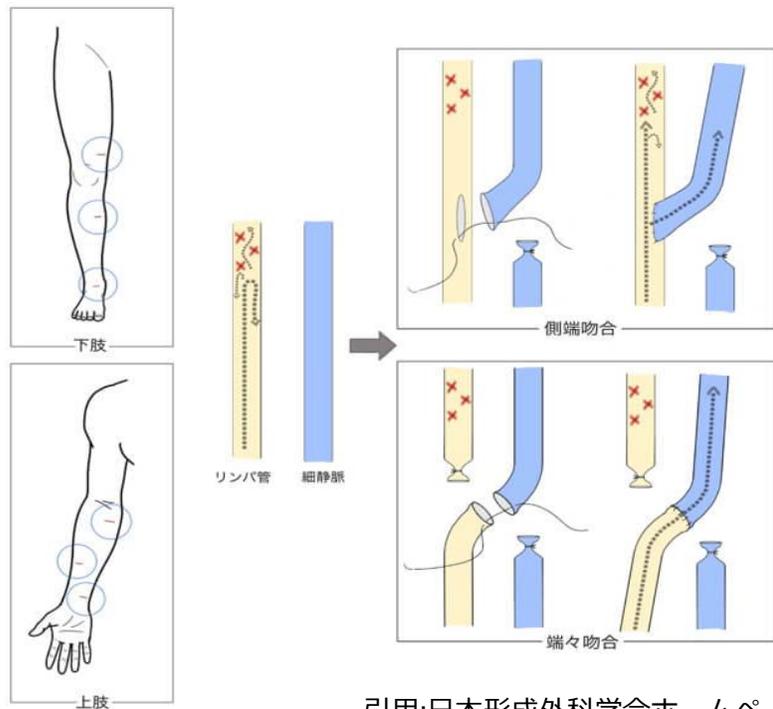


複合的理学療法 (lunamedical inc.)

リンパ浮腫の治療

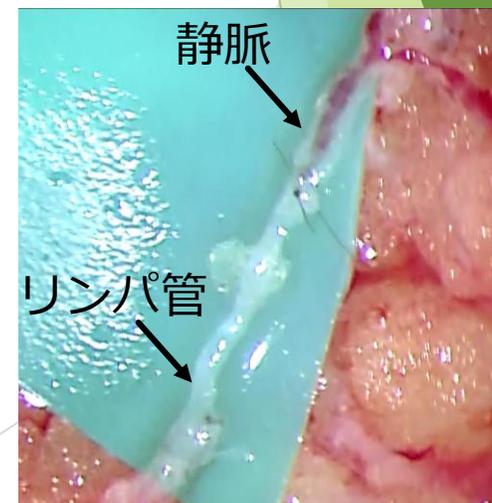
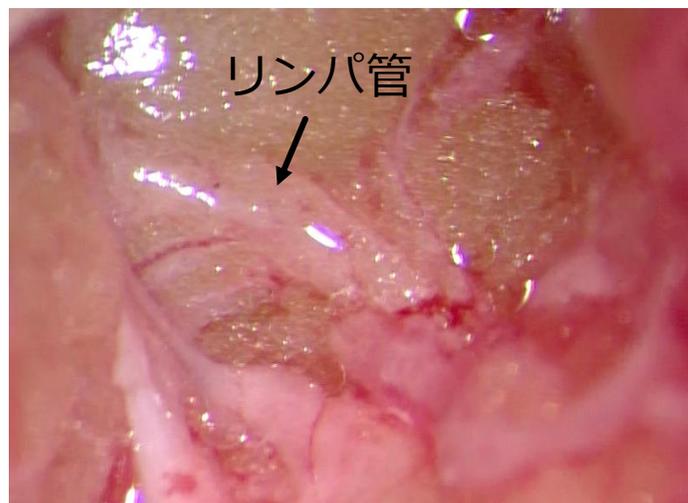
- ▶ 治療の第一選択は、保存的治療です。具体的には、**リンパドレナージ、弾性着衣の装着、スキンケア**などの**複合的理学療法**に**日常生活指導**を加えた**複合的治療**を行います。
- ▶ 保存的治療に抵抗性の場合、外科治療を行っています。
- ▶ 当院で行っている外科的治療の一つに**リンパ管静脈吻合術**があります。

リンパ管静脈吻合術とは？



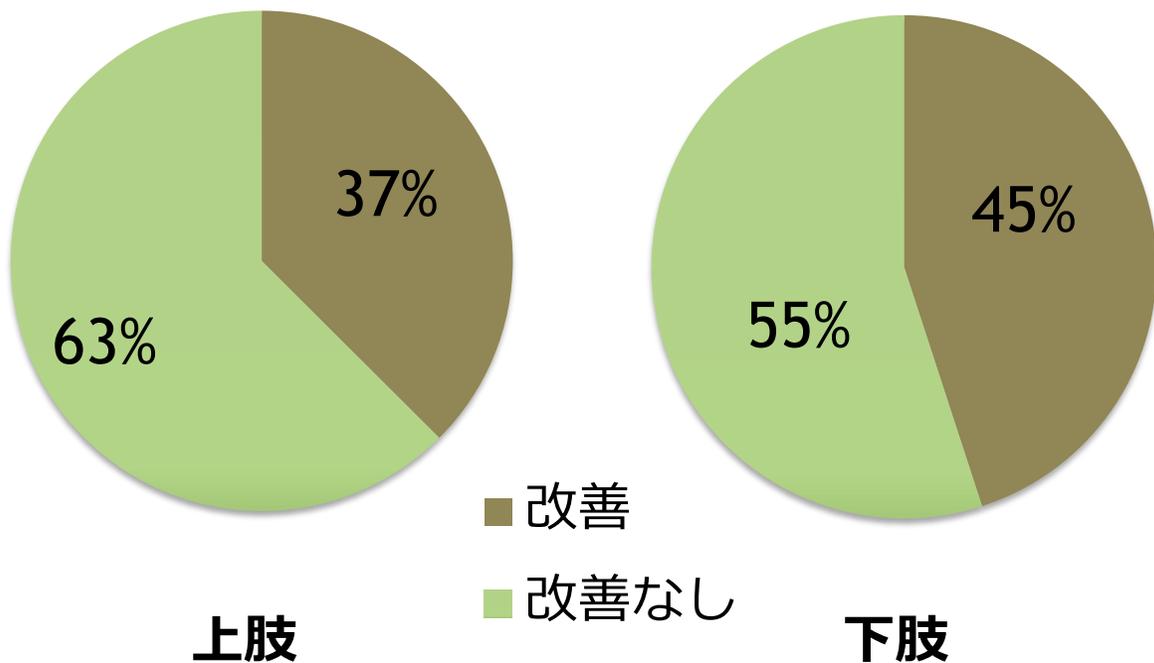
引用:日本形成外科学会ホームページ

- リンパ管静脈吻合術では、溜まったリンパ液を下肢や上肢のところで静脈に流すためのバイパスを作ります
- 局所麻酔でも手術可能です。
- 足や手に5cm程の皮膚切開を入れて、脂肪組織内のリンパ管と静脈を探して縫い合わせます。
- リンパ管は非常に細く0.5mmくらいです。

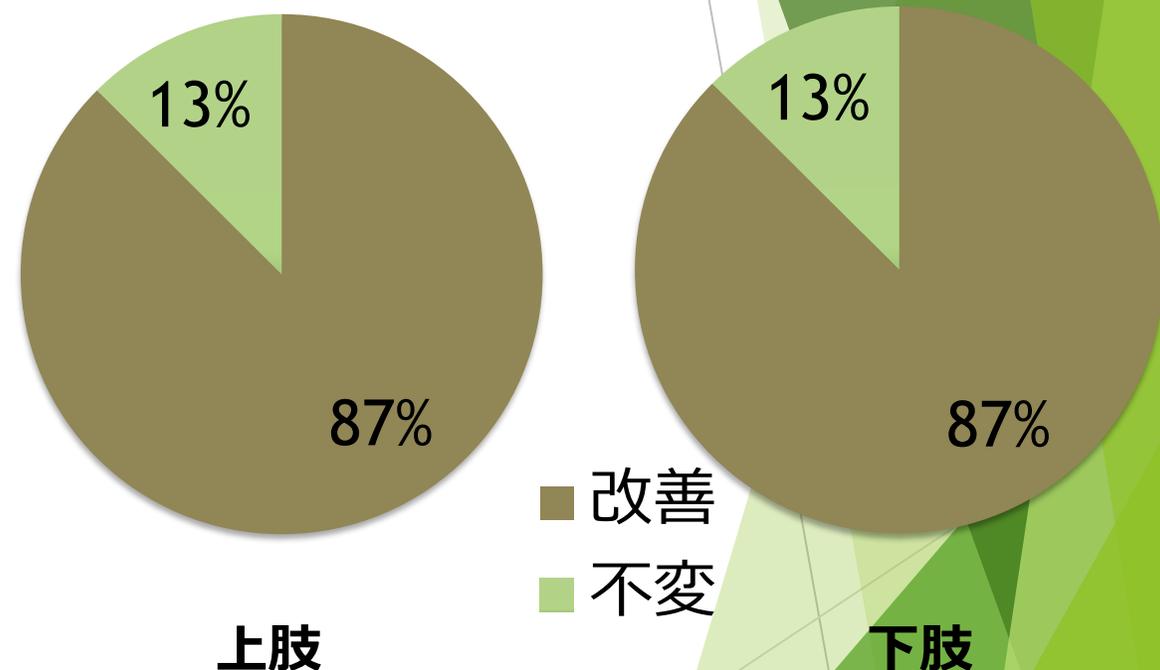


当院でのリンパ管静脈吻合術の成績

①：サイズ



②：自覚症状



当院で行なっているリンパ管静脈吻合術の成績です。
サイズが改善する方は3~4割程度ですが、自覚症状が改善する方は
8割以上という結果でした。

2016年~2018年当院

2. アピアランス問題への取り組み

アピアランス問題とは？

- アピアランス問題とは、疾患による外見の変化で、疾患自身による変化や治療による変化があります。
- 日常・社会生活へ影響を及ぼし、患者さんの生活の質（QOL）に関わるため近年注目されつつあります。
- がん治療でのアピアランス問題：
がん治療においても、疾患による、または手術に伴う形態の変化、リンパ浮腫、化学放射線治療による脱毛・皮膚炎など、さまざまな状況でアピアランス問題がおこりえます。

なぜ今アピアランス問題を取り上げるのか？

- ▶ 昔の医療では病気の治療に重点を置いており、病気が治るのなら他のことは犠牲にしても許されるという考え方でした。しかし、現在は治療を受けられる**患者さんの自由意志や選択を尊重**することが浸透しており、**治療中、治療後の生活の質 (Quality of Life)** にもしっかりと目を向けていくことが重要であるという認識が広がってきております。
- ▶ このような背景から**アピアランス問題**が重要視されるようになってきています。治療後に**日常生活や、社会生活への復帰がスムーズにできる**ように、また**治療にも前向きに臨める**ように、医療者も積極的に関わる必要があります。

アピアランス問題 国内の状況

国内の状況を見てみますと、厚生労働省の第3期がん対策推進基本計画でクローズアップされ、第4期がん対策推進基本計画では「がんと共生」における目標の一つとして「アピアランスケア」が取り上げられています。
(右図：厚生労働省HPより)

第4期がん対策推進基本計画(令和5年3月28日閣議決定)概要

第1. 全体目標と分野別目標		第2. 分野別施策と個別目標	
<p>全体目標：「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんと共生を目指す。」</p>			
<p>「がん予防」分野の分野別目標 がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す</p>	<p>「がん医療」分野の分野別目標 適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す</p>	<p>「がんと共生」分野の分野別目標 がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることを目指すことのできる地域社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す</p>	
<p>1. がん予防</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) がんの1次予防 <ul style="list-style-type: none"> ①生活習慣について ②感染症対策について (2) がんの2次予防(がん検診) <ul style="list-style-type: none"> ①受診率の向上について ②がん検診の精度管理等について ③科学的根拠に基づくがん検診の実施について 	<p>2. がん医療</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) がん医療提供体制等 <ul style="list-style-type: none"> ①がんゲノム医療について ②手術療法、放射線療法、薬物療法について ③チーム医療の推進について ④がんのリハビリテーションについて ⑤支持療法の推進について ⑥緩和ケアの推進について (2) 妊孕性温存療法について (3) 希少がん及び難治性がん対策 (4) 高齢者のがん対策 (5) 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装 	<p>3. がんと共生</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 相談支援及び情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ①相談支援について ②情報提供について (2) 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・療養支援 (3) がん患者等の社会的な問題への対策(サバイバルシップ支援) ①経済的支援について ②アピアランスケアについて ③がん診断後の自給対策について ④その他の社会的な問題について (4) ライフステージに応じた療養環境への支援 <ul style="list-style-type: none"> ①小児・AYA世代について ②高齢者について 	
<p>4. これらを支える基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進 (2) 人材育成の強化 (3) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発 (4) がん登録の利活用の推進 (5) 患者・市民参加の推進 (6) デジタル化の推進 			
<p>第3. がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 関係者等の連携協力の更なる強化 2. 感染症発生・まん延時や災害時等を見据えた対策 3. 都道府県による計画の策定 4. 国民の努力 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化 6. 目標の達成状況の把握 7. 基本計画の見直し 			



国立がん研究センター中央病院など、アピアランスケアセンターを立ち上げ、積極的に取り組む施設も増えてきています。
(左図：国立がん研究センター中央病院HPより)

当院でもアピアランスケア委員会が発足しました！
各種相談に対応しておりますので、何かお悩みがある方は担当医や看護師までご相談ください。

さまざまなアピアランス問題とそれに対するアプローチ

アピアランス問題	アプローチ
皮膚炎	肌のケア
爪の変形	爪のケア
脱毛	帽子、ウィッグ、頭皮冷却など
顔面の変形	修正手術、エピテーゼなど
傷跡	テーピング、メイクなど
乳房の欠損	乳房再建、人工乳房
手足の欠損	義肢

これ以外でも、外見のことでお困りのことがあればいつでもご相談ください！